

令和7年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価（4月8日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の趣旨や生徒の実状に応じつつ、配慮を必要とする状況にも対応できるカリキュラム・マネジメントに取り組む。 新しい時代に必要な資質・能力の育成をめざし、授業改善と探究活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育課程を踏まえた指導計画に基づく授業づくりとその実践を図る。 ②学習活動に探究のプロセスを取り入れた授業作りを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校目標の達成に向けた教育課程や授業研究を教科会でも行い、議論を深める。 ②定期的な授業改善研修を実施し、学習活動に探究のプロセスを取り入れた授業作りと生徒間の学び合いを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科で教科指導及び評価の課題を整理し、授業改善につなげることができたか。 ①公開研究授業に組織的に取り組めたか。 ②生徒による授業評価において、授業のあり方について好意的な評価が9割5分を超えたか。 ②「主体的で対話的な深い学び」に関する事例及び校内の取組事例を共有することができたか。（会議等を3回以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ①公開研究授業に向けて教科全体で指導案を作成し、議論することで教科指導及び評価の課題を共有することができた。 ②授業の在り方について好意的な評価が3年次では9割5分を超えたが、1年次、2年次では9割2分であった。 ②「主体的で対話的な深い学び」に関する事例共有を1回行った。（3回以上の目標達成はできなかった） 	<ul style="list-style-type: none"> ①公開研究授業および研究協議を踏まえた教科会を開き、授業改善に向けた検証を行う。 ②職員会議とあわせて実施している授業改善研修を継続し、全体に事例共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①公開研究授業の取り組みが充実していることを評価する。検証方法について具体的に明記すべきである。 ②肯定的な回答が昨年度より増加した点を評価する。授業評価のまとめ資料は分かりやすい工夫が必要である。 ②伝達型ではなく、対話を取り入れた主体的・対話的な研修形式を奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①公開研究授業に組織的に取り組み、学校関係者から良い評価を得ることができた。具体的な検証方法を検討する必要がある。 ②授業評価では肯定的な回答が昨年度より増えなかったため授業研究の一環として位置付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①公開研究授業の日程を早期に決定し、各教科の準備を充実させる。 ①定期的な授業改善研修を行う。 ②授業評価についてはまとめ資料の改善を図り、授業研究の一環として研修を行う。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全般をとおして生徒の主体性や人間性を高め、社会に貢献できる人材を育成する。 生徒理解を深め、個に応じた柔軟な支援を行える体制を組織的に整備し充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①規範意識や身だしなみについての意識の醸成を図る。 ②SC、SSWを効果的に活用し、生徒の抱える問題の早期発見に努める。 ③学校行事や部活動等を活性化させることにより、生徒の主体性や協調性の向上を図る。 ④持続可能な生徒会を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①モラル・マナー教育の充実と丁寧な指導により基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を高めるために頭髪・遅刻・服装指導をする。登校時の安全確保のため、警察とも連携する。 ②教育相談体制を確立し、個別支援を充実させるために生徒へ教育相談の情報を分かりやすく発信し、SC、SSWと連携を深める。生徒情報交換会を実施する。 ③実行委員、生徒会本部、部長会の連携を深め、連携して行事計画及び運営を行う。 ④生徒会本部、行事、部活動において、次代へと継続できる仕組みを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校則や社会規範に対する生徒の理解を深めた上で、時間厳守、挨拶励行、服装頭髪マナーの向上等を図り、指導対象者数を前期と比べて後期に減らすことができたか。 ②教育相談コーディネーターやSC、SSWとの会議を月1回以上開催できたか。全職員対象の生徒情報交換会を2回以上開催できたか。 ③実行委員、生徒会本部、部長会の生徒にアンケートを実施し、活動を通して、主体性や協働性が向上したという生徒が8割以上いたか。 ④教員の過度な介入なく、次世代への継承ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①4月に登校指導、10月に校門制服指導を実施した。各年次で遅刻指導・頭髪指導を行った。今年度より服装指導を全年次共通理解で行った。 ②5月と9月に県の施策である「かながわ子供サポートドック」の実施を受け、SC、SSWとの連携が推進された。 ②職員対象の研修会を2回実施した。 ③主体性や協働性が向上したという生徒が8割以上いた。 ④生徒会本部、行事においては係別等の組み合わせを工夫し、3年生の経験を引継ぐ仕組みとした。部長会については、教員からのアプローチによって引き継ぐことが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ①指導期間中は一定の改善がみられたが、各指導期間外に少数ではあるが違反者がいる。引き続き服装指導等を組織的に行う。また、情報モラル教育を充実させる必要がある。 ②早期に対応が必要な生徒に対して支援を引き続き行う。 ②次年度も継続して実施する。 ③次年度も継続して実施する。 ④部長会に関する招集については、部長とともに次のリーダーとなりうる人物とともに参加させる工夫を始めた。生徒会本部、行事の委員会とともに次年度も継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①指導による服装の大きな改善がみられたことを評価する。生成AIの普及に伴い、情報モラル教育の充実は必須である。 ②「かながわサポートドック」の実施を受け、プッシュ型面談で一定数の生徒を支援へ繋ぐことができた。 ③生徒会活動、行事等を通して生徒の主体性や協働性が向上した。 ③不審者対策のための入場対応は防犯効果は得られたものの、入場時間の遅延や地域住民が参加できない等の課題が残った。 ④生徒会本部、行事の実行委員、部長会では引継ぎの仕組みを構築することによって、次年度への円滑な引継ぎが可能となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣について全職員で指導を行った。服装指導などで一定の改善が見られた。 ②「かながわサポートドック」の実施を受け、プッシュ型面談で一定数の生徒を支援へ繋ぐことができた。 ③生徒会活動、行事等を通して生徒の主体性や協働性が向上した。 ③不審者対策のための入場対応は防犯効果は得られたものの、入場時間の遅延や地域住民が参加できない等の課題が残った。 ④生徒会本部、行事の実行委員、部長会では引継ぎの仕組みを構築することによって、次年度への円滑な引継ぎが可能となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①来年度も基本的な生活習慣について教職員全体で共通理解のもと指導を行う。 ②来年度も生徒へ教育相談の情報を分かりやすく発信する。 ③主体性や協働性の向上とともに、自治のあり方を生徒自身が考え、実施できるよう教員が支援する。 ③PTAとの協力や地域住民の参加について検討する。 ④教員が介入しすぎることのないように支援する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(4月8日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	・校内での指導・支援と学校外の教育力を系統的に展開することにより、生徒一人ひとりが自己の適性を正しく理解しながらキャリア意識を高め、希望する進路を実現できる体制を整える。	①講演会や外部模試の年度別比較から自己を振り返ることで将来の目標実現に向けての活動につなげる。 ②インターンシップ等の参加人数を増やす。 ③探究的な学びをすることでキャリア意識を高め進路実現をする。	①外部模試や各種講演会、説明会など学校外の教育力を活用し、現状把握をするとともに目標設定をさせる。 ②年次集会やLHRで呼びかける。 ③「総合的な探究の時間」を通して学びのスタイルを身に付けさせるとともに、興味・関心をキャリア選択につなげさせる。	①学習状況調査で学習時間が増加したか。卒業生へのアンケートや受験結果から好意的な評価が8割以上あるか。 ②参加人数が20名を超えたか。(昨年は15名) ③生徒による授業評価で好意的な評価が8割以上いたか。	①「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」の将来への夢や希望を持てたかという項目で好意的な回答は95%であった。 ②参加人数が24名であった。 ③生徒による授業評価の授業の充実感があるかという項目で1年次は93%、2年次は83%で好意的な評価だった。	①継続して実施していく。 ②次年度は参加人数30名を目指す。 ③全体的に2年次での好意的な評価が低かったため、2年次での授業を工夫する。	①肯定的な回答が昨年度より増加した点を評価する。 ③肯定的な回答が昨年度より増加した点を評価する。	①なかなか目標を持って進路活動に取り組ませることができず、その結果十分な成果をあげることができなかった。 ②参加人数が増えた。 ③2年次の「総合的な探究の時間」の充実度が1年次と比べ10%も低かった。	①学校外の教育力をもっと活用して現状把握と目標達成に役立てる。 ②引き続き募集を呼びかける。 ③探究の時間を有効に使い、進路につながるよう工夫する。
4	地域等との協働	・地域や保護者等との連携・協働を図り、信頼され開かれた学校づくりを推進する中で、生徒の主体性や社会性を育む。	①地域貢献活動等ボランティアの推進を図り、生徒の社会性を育む。	①年次集会やLHRでの呼びかけや委員会等の活動を通して、地域貢献活動等ボランティアへの積極的な参加を促す。	①ボランティアへの参加者が20名を超えたか。(昨年は14名) ①地域貢献活動のアンケートで、活動を通して地域の一員としての意識が高まったという生徒が8割以上いたか。	①参加人数が27名であった。 ①地域連携・地域貢献の意識が向上したという生徒が8割以上いた。	①次年度は参加人数30名を目指す。 ①次年度も継続して実施する。	①文化祭におけるPTAとの協力や地域住民の参加について検討してほしい。 ①肯定的な回答が昨年度より増加した点を評価する。	①参加人数が増えた。 ①地域貢献活動等を通して生徒の地域連携、地域貢献の意識が向上した。	①引き続き募集を呼びかける。 ①生徒が積極的にボランティア活動に参加できるように支援する。
5	学校管理 学校運営	・地域や保護者をはじめ社会の教育ニーズに対応しながら、安心して学ぶことのできる教育環境を整備し、学校の取組に関する情報を積極的に発信する。 ・職員の教育公務員としての自覚を高めつつ、ワークライフバランスを推進しながら協働性を高め、業務の効率化を図る。	①校舎の老朽部分や校内の危険箇所を改善し、安全な教育環境をつくる。 ②HPの充実を図り、学校の取組が見えるようにする。 ③非常勤を含む全職員で事故防止、及び不祥事防止に努める。 ④働き方改革を推進する。	①衛生委員会による危険箇所の点検機会を利用し、速やかに対応できる体制をつくる。 ②地域貢献活動等を含む教育活動を積極的にホームページに掲載する。 ③不祥事ゼロプログラムを全職員で確認し、毎職員会議前に事故・不祥事防止研修会を実施する。 ③ヒヤリハット事例を全職員で共有する。 ④職員間の協働性を高め、業務の効率化を図り、時間外勤務を減らす。	①点検を実施し、状況を把握したうえで会議等にて共有できたか。 ②清陵ナビで月2回以上の情報発信ができたか。 ②HPを編集できる教員を2名以上増やせたか。 ③毎職員会議前に研修会を実施し、情報共有を図れたか。 ③職員同士での事故防止意識を高められたか。 ④昨年度に比べて、月々の時間外勤務を減らすことができたか。	①定期点検を実施し、状況を共有した。校舎周りの樹木や残置物を処分した。老朽施設の補修工事を依頼した。 ②月2回以上の情報発信ができた。 ②HPを編集できる教員を2名以上増やすことができた。 ③毎職員会議前に研修会を実施した。 ③対話を取り入れた研修方式を導入することができた。 ④昨年度に比べて、月々の平均時間外勤務を概ね(10月以外)減らすことができた。	①Teams等を活用し点検以外にも情報が集約されやすい仕組みを作る。 ②生徒会が行っているInstagramとの連携をより密にしたい。 ③引き続き研修に対話等を取り入れることで意識を高めた。 ④Teamsや生成AI等の活用を呼びかけ会議・打ち合わせ、資料作成の効率化を進めた。	②入試倍率低下に対する戦略的な広報活動の検討をすべきである。 ④文章表現だけでなく、数値データで実態を示す必要性がある。	①点検や情報共有を契機に、教育環境、職務環境共に蓄積していた課題を改善することができた。 ②情報発信の機会や媒体を増やすことができた。HPも含めた戦略的な広報活動の検討をする。 ③アンケート・対話を取り入れた研修を実施し、研修の質が高まった。 ④昨年度に比べて、月々の平均時間外勤務が概ね減少した。	①事務室との情報共有をよりタイムリーに行う。 ②HPの充実に加えて、中学校訪問等の広報活動の充実を図る。 ③対話がより活発に行われる研修を行う。 ④職員に向けて定期的な概況報告を行う。